

令和6年度「親の育ち」家庭教育支援者養成講座

本年度の「『親の育ち』家庭教育支援者養成講座」では、既に子育てネットワーカーとして活動している方、これから子育てネットワーカーを志す方、家庭教育や子育てに興味がある方など、90名近くの受講者が参加されました。

研修を終えた方が、今後、「子育てネットワーカー」として、各市町村で子育てや家庭教育に奮闘している保護者を支援する立場として御活躍いただけることを期待しています。

<講座の内容> ※会場参加及びオンライン参加によるハイブリッド方式で開催

講座	開催日	内 容
1	9月19日(木)	単位C: ①(行政説明)「県の家庭教育支援施策の動向」 講師:愛知県教育委員会あいちの学び推進課家庭教育担当 ②「受講する仲間とのつながりづくり」 講師:豊川市子育てネットワーカー 志村 貴子 氏
2		単位F:「家庭教育支援者として知っておきたい子どもの権利」 講師:一般社団法人子どもアドボカシーセンターNAGOYA 理事 原 京子 氏
3	9月25日(水)	単位B:「子供の特性と保護者支援:児童期・思春期編」 講師:愛知教育大学 教授 野平 慎二 氏
4		単位E:「家庭教育研修会の講座運営の方法、『親の学び』学習プログラムの活用について」 講師:一宮市子育てネットワーカー 宮崎 初美 氏
5	10月4日(金)	単位A:「子供の特性と保護者支援:乳・幼児期編」 講師:名古屋学芸大学 教授 渡辺 桜 氏
6		単位D:「子育て・家庭教育支援の実際、子育て支援サークル『あそびのいっぽ』の活動をとおして」 講師:大府市子育てネットワーカー 大橋 房代 氏

<単位C> 県の家庭教育支援施策の動向、受講する仲間とのつながりづくり



愛知県の行政説明では、アウトリーチ型支援の役割や活動内容を紹介するとともに、家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」について説明しました。また、子育てネットワーカーとして長く活躍されている講師からは、自身の経験や実践について御講義いただいた後、受講者同士のコミュニケーションを促進するためにグループワークを行いました。多くの受講者が笑顔で自分の経験や考えを話し、気軽に話せる雰囲気づくりと研修終了後の活動の仕方について考える良い機会となりました。

<単位F> 家庭教育支援者として知っておきたい子どもの権利

「子どもの権利」について分かりやすくお話しいただいた後、「子どもの権利」を阻む要因について、グループで考えました。「大人の良かれは、子供にとって良かれではない」、「大人の何気ない言語や行動が子供の権利を奪っている」という御指摘にはっとさせられた方も多かったようです。子供の権利を意識して行動できているかどうかについて自分自身を振り返り、受講者同士で意見交流をしたことで、子供の立場をもっと考えた言動や行動を心掛けることの大切さを理解するとともに、支援者としてのあるべき姿について改めて考える機会となりました。



<単位B> 子供の特性と保護者支援：児童期・思春期編



児童期や思春期の子供の特性と現代社会の変化に伴った保護者支援の在り方についてお話をいただきました。子供たちが現代社会を生き抜くために必要な力を身に付けることができるように、「転んでも失敗しても立ち上げられる子育て」の重要性を再認識できました。そのためには、子供が安心して学べる環境を整えること、身体経験ができる場を用意すること、子供の考えを受け止めて助言することなど、保護者や支援者としての心構えについて、学ぶことができました。

<単位E> 家庭教育研修会の講座運営方法、『親の学び』学習プログラムの活用について

子育てネットワーカーとして長く活躍されている講師から、自身の経験や実践を基に、子育てネットワーカーの活動内容をはじめ、その意義や目指す姿についてお話しいただきました。また、「あいっこ『親の学び』学習プログラム」を活用したグループワークを行い、ワークショップの進め方やアイスブレイキングの方法等を体験しました。講義やグループワークをとおして、講座運営の仕方はもとより、子供目線で言葉を選ぶことの大切さや、どのようにして参加者の意見をまとめるのかなど、子育てネットワーカーのやりがいや魅力について学ぶことができました。



<単位A> 子供の特性と保護者支援：乳・幼児期編



講義では、乳・幼児期の子供の特性と、子育て支援のポイントについて保育現場における実践例を挙げながら、お話しくださいました。「保育現場でも家庭教育でも大切なのは、物・人・場の相互関連である」「子供が安全で安心して生活できることが重要」「『自分でできた、自分で選んだ、自分で考えた』を子供が実感できること」「子供も大人も楽しさが勝るような関わりが大切」とのお話から、これまでの自分自身や子供や保護者に対する見方を振り返るとともに、子育てネットワーカーとして、保護者としてあるべき姿を考える機会となりました。

<単位D> 子育て・家庭教育支援の実際、子育て支援サークル『あそびのいっぽ』の活動をとおして

ボランティア団体「子育て支援サークル『あそびのいっぽ』」を設立され、様々な事業を展開されている講師から、支援団体の立ち上げの経緯や活動事例、運営の工夫、支援の在り方や活動の進め方等について、自身の体験や実践を基に具体的に説明していただきました。参加者同士の情報交換を交えながら「支援を受ける側はもらうばかりではなく、恩返しをしたいという思いをもっている」「子供も大人も地域の宝」「支援者側の自己満足にならないような支援を考える」とのお話から、支援の意義や魅力を実感をもって学ぶことができました。



<参加者の声>

- 講座を受講する方との意見交流をとおして、多くの方とふれあうことができ、この心地よさを、誰かの支援につながる第一歩としていきたいと感じる貴重な時間となりました。
- 子供の権利擁護は、子供の成長と幸せにとって極めて重要なことであることを改めて学ぶことができました。私たち大人が意識を変えて行動していかなければならないと思いました。
- 子供のもつ主体性を伸ばすには、私たち周りの大人の人的環境が一番重要であると再認識しました。
- 子育てネットワーカーとして目指すべき姿が明確になり、講座の進め方について理解できました。
- 「自分でできた」「自分で選んだ」「自分で考えた」を、これから子供たちと関わっていくときに心に留めておきたいと思いました。子供と一緒に考えたり工夫したりすることも楽しみたいと思いました。